

学 会 名 第31回日本慢性期医療学会  
(2023年10月19日～20日)

研究テーマ 褥瘡予防におけるチームアプローチによるシステム作り  
～車椅子乗車時の褥瘡予防の向上～

病 院 名 医療法人喬成会 花川病院

演 者 ○工藤 香菜(看護師) 桐腰 祐子(看護師) 小島 佳祐(作業療法士)

## 概 要

### 【はじめに】

当院は180床のリハビリテーション病院であり、積極的に離床を進めている。しかし毎年褥瘡新規発生がある。2021年度の褥瘡発生数は19名、そのうち発生の部位は仙骨、臀部10名と53%を占めていた。日常生活自立度Cレベルは10% B1、B2レベルは85%であり、その中でも車椅子使用し食事、排泄ができるレベルB1の患者が65%と一番多かった。

そこで、車椅子乗車時の褥瘡予防が不十分であったのではないかと考え、多職種で褥瘡予防ができるよう、仕組みを考えることとした。

### 【方法】

当院回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 計234名に褥瘡予防についてアンケート調査を実施。患者2名の車椅子乗車時間の計測と職員のプッシュアップ実施時間を計測した。

アンケート調査を基に、多職種へ褥瘡予防の勉強会の実施、車椅子乗車時の予防マニュアルの作成、褥瘡リスクのある患者を周知できる仕組み作り、離床しながら褥瘡予防できる動画を作成した。

### 【結果】

患者2名の車椅子乗車時間は、1日12～13時間乗車しており、プッシュアップの実施は2～3時間おきにしか出来ていなかった。アンケート調査より、褥瘡予防の車椅子乗車時間は職種間で時間の違いがあった。介入前は車椅子乗車時のプッシュアップの声掛け、介助においては正しい知識がなく、実施79%理解75%と低かった。介入後は、車椅子乗車時のプッシュアップの実施87%理解97%と向上し、動画作成により患者さん自身がプッシュアップするようになった。

また褥瘡予防の勉強会の実施、車椅子褥瘡予防マニュアルを作成することで、統一した褥瘡予防対策を実践することができ褥瘡新規発生0件に抑えることができた。

### 【考察】

今回、当院の褥瘡予防について検証した結果、褥瘡予防の重要項目である、接触圧の測定による身体に合ったクッションの選定や車椅子乗車時のプッシュアップが十分に実施できていなかった。

そのため褥瘡予防の勉強会の実施、車椅子褥瘡予防マニュアルを作成することで、適切なクッションの選定や車椅子乗車時のプッシュアップなど統一した褥瘡予防を実践する事が出来た。また褥瘡リスクのある患者を周知する事で、話し合いや検討する機会が増え、チーム全体の褥瘡予防意識が高まり褥瘡の新規発生を0件に抑えることができたと考える。

### 【引用参考文献】

- 1) 日本義肢装学会誌：車椅子シーティングによる褥瘡予防 木之瀬隆 P21-26 2017
- 2) 車椅子シーティング研究：リハビリテーション専門職が行う車椅子上での褥瘡対策 鹿島拓也 P37-41 2020
- 3) 褥瘡会誌：車椅子座位が原因で発生する褥瘡の予防と対応 森田智之 P22-24 2021
- 4) 日本褥瘡学会編：褥瘡予防・管理ガイドライン（第4版）褥瘡会誌 17：487-557 2015